自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0170400626		
法人名	有限会社ハートウォーミング		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	札幌市西区発寒14条3丁目6－16		
自己評価作成日	令和5年7月13日	評価結果市町村受理日	令和5年9月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170400626-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

あさひの理念に基づき、家庭的な環境を大切にしている。
穏やかで心地よい生活への支援をしている。
ご家族様には通院や行事参加等の協力をいただいている。
また、新型コロナウイルス感染症2類相当時においても、施設来所は制限せず、ご家族様が居室内で面会することができるよう配慮した。
安全な自力歩行（伝い歩き）の環境にも配慮し、ベランダでの日光浴や敷地内に植えた花や野菜を見て季節を感じながら、共に手入れをしている。
入居者様のIADLによっては、買物や家の前、近隣公園の清掃も共に行っている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年8月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2002年に開設した事業所は、周辺住宅に溶け込んだ2階建ての建物内で1ユニット9名の利用者が暮らしている。発寒の利便性の高い環境に在り、地域とは長年にわたり相互交流を深めており、地域資源の一つとして、近隣の小、中学校の社会科授業にも貢献している。利用者の日常はゆったりとした時間の中で、その時々好きな花を植えたり、ベランダで野菜の成長を眺め、公園で子供達とふれ合っている。家族との面会については感染防止に留意しつつ、居室対応を継続しており、コロナ禍でも、ごく普通の生活が営めるよう、積極的に外の風を取り入れている。また、看護師である代表者は、協力医療機関等と密接につながり、頼りとなる関係性を築いている。状態に即した医療支援とともに、居間の端にベッドを置き、重度者も皆の声が聞こえる中で過ごせるよう、五感刺激や生活している感覚を大切にしている。「心地よく感じられること」を共有して職員それぞれが細やかな接遇に努めており、さらに、調理担当など業務を振り分けた職員配置によって生活環境も整え、日々笑顔で穏やかな暮らしになるよう利用者に寄り添って支援している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとづいて利用者様、ご家族様の笑顔が見られる様ここちよくなる支援をしている。	理念は、利用者はじめ、関わる全ての人が心地よく感じられることを念頭に置き、ホーム内の掲示やパンフレットで広く周知している。職員は方向性を一つにして、理念に沿ったサービスの実践に日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧を通して地域の活動を知り、学校行事（校外授業）の協力をしている。	開設当初より地域密着の運営であり、祭りや行事などで交流を深めてきている。周辺に住む職員も多く、回覧板でも地域情報を入手し、公園清掃や散歩時には住民、子供達とふれ合っている。小・中学の社会科授業に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	動ける方々がいる時には公園の周りの掃除などしたが、今はない。 GH前や隣近所の公園の歩道の清掃を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍での書面での報告にご意見は出ていないが、適切なケア実施に日々評価検討している。	定期的に報告事項を書面にしてメンバーに配布し、意見の聞き取りに努めている。利用者の様子や身体拘束適正化の内容を中心に、事業所の現状を報告している。対面会議への移行後は、包括支援センター職員や家族、地域の方々が参集している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH入居状況を定期的に報告、運営推進会議（コロナ禍で書面）を通して、当GHの状況を伝えている。	行政職員とは協力関係を築いており、各種の連絡や報告事項、情報交換などで都度連絡し合っている。日常的な接点では、保護課ケースワーカーや介護認定の変更などでケアマネジャーの来訪があり協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に研修を行い、グレーゾーンまで話し合い、職員は理解を深めている。 玄関施錠は今現在、離設される人がいないためしなくていいと思われる。	身体拘束適正化の指針のもと、毎月委員会を開催し、併せて勉強会を行っている。ホーム内で拘束がないことを明らかにし職員の共有化を図っている。身体拘束や虐待に係る内容の理解を深め、スピーチロックやグレーゾーンに触れる場面は事例で検証している。チェックリストを活用して自己覚知を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	常に利用者様の身体チェックを行い確認している。 但ただし、理解が出来ない利用者に対しての言葉使いが出来ていない職員もいる。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を必要としている方はいないが、職員の学習会はあっても良い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の機会は設け、施設見学を行っている。重要事項の変更等も事前に連絡し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接的な要望はないが、思いの代弁等で家族さんへ伝えている。 コロナ禍でも面会の制限はせず、家族・本人の安心を得ている。	コロナ禍での面会対応は、感染防止強化のうえ居室面会を継続している。家族との接点を大切に行事参加を促したり、家族が知りたい情報を伝えて話し合っている。プリントした写真紙は家族に評判が良く、年数回発行の通信も届けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議に向け意見を聞いている。 意見には速やかに対処して、働きやすい環境に努めている。	職員は助け合いながらチームケアを行い、業務や会議時に意見等を述べる機会がある。管理者は、職員や利用者の動向等を総括的に把握し、シフト調整や希望休の確保、必要研修の提示など働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。研修参加への意向も聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修機会は（直接参加）ないが、利用者の生活をみる機会をもち必要時には指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会へは積極的に参加する時間を確保している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間で情報共有し、本人が安心して話しやすい雰囲気作りや声掛け等に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から問題点を聞き要望などを踏まえ解決できるようにともに考え、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族にとって最優先とする課題を見極め支援に向け努力する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の保持している能力を見極め、家事や炊事等、無理のない範囲でとっもに作業していくよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・ご家族で協力し本人を支え絆を深めてもらうため、行事への参加等働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はしていない。 外出も安全に配慮している。	大切な人との関係を断ち切らないよう、家族との面会を支援している。定期的に床屋さんの来訪があり、また、週2回ほど退職した職員を再配置して拘縮予防等のマッサージを提供し、顔見知りの安心感と心身の心地良さにつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルなどに配慮し、常に平等に接し、利用者同士が良い関係を築けるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談の窓口としていつでも受けられることを伝えている。 年賀状のやり取りの実施。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人、家族様からのヒアリングのほか、生活サイクルや周辺環境の確認など情報収集をしっかり行っている。	不安なく落ち着いて過ごせるよう、入居時に詳細なアセスメント情報を把握している。普段の寄り添いから言葉や表情・仕草などで意向や情報を共有し、花を育てたい、散歩に行きたいなどの希望はできる限り日常場面で反映している。	重度化傾向の利用者が多く、その人らしい暮らしの延長として人生の最期をどこで過ごしたいかなど、本人の思いの聞き取りに努めている。今後も継続してその取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同上		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェックを毎日行い、本人の体調変化に注意しながら安全に穏やかに過ごせるよう支援		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の評価と見直しをしている。 申し送りや会議などで話し合い、現状に即した介護計画を作成。	定期的に、利用者担当の職員と計画作成担当者が主となって個別の介護計画を作成している。生活面と医療的支援の両面を捉え、医療従事者の助言、職員個々の気づきや日々の実施状況を検証し、本人・家族の意向に沿うニーズのもと、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録の実施と申し送りを行う。 定期的に勉強会、研修を行い確認する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、ご本人や家族様に変化があった場合は、すぐ話し合い対応・支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩中、公園での地域の方との交流、幼児との交流、犬とふれ合い、小学校・中学校の社会学習の受け入れ		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月１回の定期的な内科往診、土曜日の歯科往診。その都度適切な受診が出来る様支援している。	かかりつけ医との協力体制を図り、専門科外来をはじめ、月1回の内科の往診、必要に応じて歯科医の往診や口腔ケアの助言などを受けている。看護師である運営者が常駐し、日常の健康管理からターミナル期まで、医療と良好な関係の強化に努めている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	間違いなく利用者様の情報は看護師に伝え受診等にも繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院での状況を病院・家族さんから聴き、退院後の生活支援をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応の意向は聞いている。重度化、終末期のケアはその時々で意向を確認し、利用者様に対してチームとして支援している。	看取り支援は事業所の方針であり、多数の経験を重ねている。入居契約時に利用者・家族に説明し、同意書を交わしている。また、救急搬送時の医療への意向に沿い、緊急特変時の支援を行っている。主治医との連携の下、職員チームで安心、安楽に過ごせる体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故対応には応急手当及び看護師に報告 救急ガイド、急変対応フローチャートの学習を定期的に行う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での対応は常に話し合いがもたれている。 地域との協力体制は運営推進会議のメンバーや家族様への連絡網を作っている。	年2回、火災や地震を想定した自主訓練を行っている。また、水害時の対応を共有し、実際時は2階への早目の垂直移動を確認している。防寒対策を講じ、各種の備蓄品を準備し、公的避難場所である近隣小学校の現況を理解している。BCP（業務継続計画）の準備を進めており、さらなる防災強化に取り組んでいる。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のその人らしさ、個々への言葉かけに注意を払っている	自尊心を損ねない関わりや言葉使い、接遇は、利用者一人ひとりの理解のもとで、日常的に心掛けている。排泄や入浴時の同性介助の意向に応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や思いを聞き出す事をしている。 花を植えたい⇒一緒に花を植えることで、喜び笑顔が見られている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースに合わせ身体の様子を交えて支援を行い、日々出来る限り希望に添う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方はは見守りで対応、必要な方には支援をしている。 ご本人の意向を家族さん等から、ご本人の生活習慣を支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事作り・片付けを出来るかたはいないが一人ひとりの好み、楽しめるよう提供している。	美味しく食せることを大切に、調理担当職員を配置し、個々の好みを取り入れ、形態の変更は利用者の状態に合わせ丁寧に行っている。目先を変えて、つきたて餅やいも団子を作り、誕生日は赤飯やケーキ、地域の人や家族の差し入れ、ホーム畑の野菜などで食卓を賑わしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を見ながら栄養・水分が摂れる様に声掛けしている。水分は日中の他、夜間にも声掛けして取ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔状態を見ながら、本人の力、一部介助にて口腔ケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力を活かして個々の動きや時間で声掛けし、トイレでの排泄・ポータブルトイレ（夜間）での排泄をしていただいている。	利用者の現在の力量を見極め、トイレ誘導やベッド上で介助、ポータブルトイレの使用など、自立を助ける支援を行っている。衛生用品の着用や便秘対策など、家族とも話し合い、不安や不快感が軽減されるよう細やかに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・乳酸菌製材、野菜等食材にも注意し、日々、排便の確認を共有し、レク体操等で体を動かす、下剤の調整等で便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人のタイミングに合わせて声かけして入浴を楽しんで入っていただいています。	利用者夫々が週2回程入浴しており、状態やタイミングをみながら、気持ちよく入浴できるよう誘導・介助をしている。多くは職員二人で対応しており、仰臥の人もストレッチャータイプのシャワー用車椅子で安楽に清潔を保てるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて声掛けして、リビング又は居室で休息したり、安心して眠れる様話を聞いたりしてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師とも相談し、症状を確認しながら一人ひとりに合わせて服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や片付けも直接参加や見るだけの参加で生活を感じられる支援をしている。 花壇に植える本人が好きな花を一緒に買いに行き、一緒に植えることで、楽しみとなる支援をしています		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は徒歩又は車イスで散歩へ行ける様支援している、花見では公園に行き、家族様との交流もあった。	利用者の希望に沿って、花植えをしたり、ベランダで外気浴をしている。日常のちょっとした時間で公園散策や近隣の花壇を見に行っている。恒例の桜見物は、出先の公園で家族と合流して楽しむなど、五感の刺激を促し、閉じ籠らないケアを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心感を得ることが出来る方には所持出来る様支援している。 手持ちのチェックもトラブル（忘れ・紛失）防止の為の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダのすだれの使用、共有空間の清潔は毎日の清掃で保てている。 季節の花などを飾っている。	共用空間は、清潔に保たれ、適切な温・湿度や気になる刺激に配慮している。利用者が自由に休息したり、重度者も皆の気配を感じて過ごせるよう、居間スペースにベッドやソファーを設置している。郷愁の風景画や動物の写真、利用者の作品などを飾り付けており、温かみある寛ぎの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1Fでも休める様ベッドやソファーを多く設置している。ベッドではカーテンで仕切ることが出来るようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのある物（家具類等）を持ち込める。冷蔵庫や仏壇を置いている方もいる。	クローゼットを備えた居室に、自宅で使用していたタンスや椅子、家電機器等が持ち込まれている。家族写真や大切な物を置き、仏壇に花を供えたりと、自分らしく過ごせる環境を作っている。室内の安全な動線を考慮し、伝い歩き用に長テーブルを活用している居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線を考え家具の配置（ソファーや棚）をしている。		